

テ拜有シ事ヲ名トス再拜ト書テ二度拜スト讀

〔慶長見聞集〕江戸の川橋にいわれ有事

見しは今江戸に○中舟町と四ヶ市があひに、ちいさき橋只一つ有是は往復の橋也。文祿四年の夏の比、此橋もとにて錢がめを堀出す、永樂、京錢、打まじりて有しを、四日市の者共、此錢がめを町の兩御代官板倉四郎右衛門殿、彦坂小刑部殿へさげ申たり、夫より此橋を錢がめ橋と名付たり、略○下

〔新編江戸志〕錢瓶橋

貞雄云、江戸砂子に、一説むかしは橋の邊にて、永樂錢の引替ありて、錢替ばしと云けるとあり、予聞傳へしは、錢を商ふ者此所に集り居たりし故名とすと云へり、さるは錢買ばし也。明暦の比は、錢かひ橋と云しは疑ひなし、明暦年中、中川喜雲と云し宗匠の句に、錢かひばしを玉蔓ぬけ、と云句あり、

〔慶長見聞集〕江戸の川橋にいわれ有事

先年八年○慶長江戸大普請の時分、日本國の人集て懸たる橋有是を日本橋と名付たり、

〔江戸鹿子〕橋

日本橋 南北にわたされて、橋の上にて見れば、旭日東嶺に出るをまのあたりにのぞみ、又西山にいり、虞淵に類する有さま、眼前に見つくしてならぶ橋なし、よつて日本橋と名付とかや、略○下〔國花萬葉記〕武藏國大橋七下之内、淺草川に有、明暦年中に草創の橋也、武藏國と下總國に渡されたる橋なれば、兩國橋と稱す、

〔昌平志〕遙○大按、昌平統名湯島○中、在於江戸城北相生橋、一名洗芋橋、又名昌平橋、外○中、元祿庚午年○三十ト爲廟地○略○中、凡八閱月而告竣、方其鼎建、賜名昌平、以擬魯國誕聖之鄉、蓋出於羹牆之誠云、昌